Community & Friend
2021 年 9 月号
有限会社アルファー
大阪府高槻市氷室町 4-13-3
吉田 清一郎

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 9 月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。

Charlie Watts be Forever.

思い出してみれば、2001 年以降飛行機は窮屈な乗り物になった。当初は、搭乗に際しての荷物検査でよく口論になっていたし、私自身も口論になった事もある。神戸の空港で、鹿児島に出掛ける際、ベルトのバックルが反応して金属探知機が鳴った。

担当の彼女は未だ 20 歳を少し過ぎた、普通の娘さんだった。バックルが鳴る事は自覚していたし、ハンディタイプの探知機もそこでしか反応しなかった。なのにその彼女は靴まで脱げと言う。怪訝な顔をすると『何か文句あるのか』と睨みつけ、胸を反らせて一歩前に出て、尚、靴を脱がなきゃ飛行機に載せないぞ という勢いだった。彼女の眼に冷静さは見えない。ふと我に返り《こんな年端も行かぬ娘に、何の理屈を言おうとしているのか》と時間の無駄に気づいた。その間、技術系の男性客が、何やら荷物をひっくり返されて、何度も、何度も、差戻し検査にあっている。暫く眺めていたが、結局何も出て来ず、彼は『**自分たちの未熟を恥じろ』と叫んだ。**私の脳裏に財津一郎の**「♫その とお～り」**と浮かんだが、口からは出てこなかった。

地球温暖化人為説はどうなった? 夏は暑く、冬は寒く、相変わらず冷房が消えた翌日は、暖房になる。

今は、マスクになっている。あのテロの頃が懐かしい。テロの時はもう少し、直接的で分かりやすかった。官僚が事情に通じて忖度を始めれば、情に掉させば流される結果になるので、と諦めもついた。だがこのマスクは如何ともし難い。**科学的な根拠も、法的な根拠もない。**

その上、**行政的な根拠もない** と訴えている人物がいた。先日、所用で関東の錦糸町に出掛けた時、駅前の街頭で演説をしている男性と、プラカードを掲げた女性二名のグループに出くわした。ちょうど駅前で広い喫煙所が直ぐ目の前にあったので、しばらく聞いていた。もう少し聞いていたいと思ったので、同行の社員二人を帰途に送り出し、また戻って聞いていた。『**マスクをしているみなさん**』と訴えている。

なるほど、この日 4 店舗のスーパーマーケットさんの視察をしたので、3 都市の街を訪問したが、私以外のすれ違うひとは、**見事に全員がマスクをしていた。**
聞いていると、科学的根拠・法的根拠・行政的根拠が何も無いと、その通り順を追い説明し、むしろ害があると語っていた。 **彼の言い分には同調できる。**

ほとんど集団ヒステリー状態だと私も思う。その後夜に飲食店に入ると、向かいの席との間に衝立がしてある。ひと頃は垂れ幕だったが、それを捨て去り今は立派なボードに替わっている。脱プラスチックは何処へ行った。勿論、私はそれを撤去する。撤去すると店主らしき方が、『困ります』と言い戻そうとする。食事に来て、こんな物を目前に建てられて困るのはこっちなので、またテーブルの端に撤去する。それがルールだからと言うので、思わず立って店を出ようかと思ったが、それも大人げないので、『**本気で言うてます?**』と言うと、さすがに端ではなく、もう少しこちらに寄せて去って行った。

飲酒と感染拡大の根拠も無いのに、酒類の提供を止めて下さいとお願いしている大臣が、裏で、言う事聞かない店にはお金を貸すな、酒を卸すなと、権力を振りかざしているらしい。街頭の彼はワクチンについても言及していたが、**彼の面白いところは一切政治的なことを口にしない点だった。**

テロ云々でも、地球温暖化云々でも、**ツインタワーに飛行機が突っ込んでいくシーンがベストショットで、地球温暖化は北極の氷の塊が崩れ落ちていくシーンで**、テレビがひっきりなしに映像を流すだけで、根拠を示されることは、まったく無く、世論が形成されていく。では、何か変ったかというと、何も変わっていない。

古くは 1973 年に、あたかも世界中から石油が今すぐ無くなりそうとの風潮で、どういう訳かトイレットペーパーが世の中から消えた。でも、50 年経っても石油自動車は世界中で走っている。ただ、**石油がウナギ昇りに高騰し、儲かっている人たちがいるというだけ。**

コロナも根拠が示されず、ただテレビで風潮を作り上げていくという手法は同じ。コロナはと言うと、私たちの行動を大きく制約することで随分様変わりした。

でも、個人的にこのコロナ騒動を、私は 100%否定的に捉えている訳では、実はない。マスクはどうしても仁義を通さなければならない場面でだけ、着用すればいいので大した問題ではない。電車にも、飛行機にも乗る。昨年の初めから毎週フェリーに乗って小豆島に移動もしている。遊びが制約されてお金が残れば良いのだが、元々酒は飲まない、ゴルフはしないので、お金は変わらず出ていき、哀しいかな蓄えは増えない。

でも、**みなさんの暮らしぶりが、健全な方向にシフトして来ているのではないかと思う。**この数年、人の幸せの形が変わると思って来たが、コロナ騒動が拍車を掛け、その通り変わって来た。Zoom による商談もすっかり定着し、1 時間の商談に 1 日の時間を費やす事も無くなった。飲食店の方々は大変だろうと思うが、**近くの鰻屋さんに食べに行くと、平均で五千円もするメニューにもかかわらず、お店は繁盛していた。**

弊社の中澤が面白い記事があると送って来たのは、**京都の宿**事情で、何とこのコロナ下にもかかわらず、2020 年度、京都の**宿泊可能部屋数は増えている**との話しだった。『但し、中身が換わっているよ』と書いてある。確かに京都は静かな街に変わって来ている。あの浅田次郎曰く『礼儀正しいけど、行儀の良くない』人たちも来なくなっている分、宿は新たな価値を模索していると言う。インバウンドの消失によって 580 軒廃業し、新規開業は 518 軒。登録部屋数は 5 万 3471 室から 5 万 6551 室へと、増えたとの報告していた。という事は、部屋数以上に**客に迎合しない質の向上が其処にはあると想像がつく。**

それはさておき、観光客と地域住民との軋轢も問題になっていたが、**観光客だけが利用する宿泊業からの脱却**が始まり、亦、家賃程度で 1 ヶ月間滞在できる企画があったり、これはテレワークの呼び込みだと想像しているが、『・・日常と非日常の二項対立そのものの線引きを描きなおす・・』と締めくくられていた。**旅の形より、暮らしの形を取り入れるように変わって来た。**

画像は 2018 年に Portland に出掛けた時の自作

料理の画像。2016 年 17 年と米国視察セミナーに参加したが、今ひとつ米国事情が分からなくて、それで Portland の滞在型のホテルを探して、そこで 1 週間暮らして？みる事にした。街のスーパーに出かけ、買い物し、部屋に付いているキッチンで料理をして過ごす。**非日常だが、日常の気分を体験した。**

データだと示されても、何が本当で、何が嘘なのか、見分ける自分を養うことが、既に始まっている **超管理・監視型社会** への対応になると考えている。

猪突猛進であっても 付和雷同は避けたいと思う。

有限会社アルファー
吉田清一郎